

提案名	越後の匠の家 長期優良住宅先導モデル	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	越後の匠の家普及協議会	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

新潟県産材と越後の匠の技を活用し、新潟の気候風土に適した長期優良住宅「越後の匠の家」を、施工者・設計者・木材生産者のネットワークで実現します。

- 新潟県産材の活用
 - ・新潟県の杉人工林は 29,606 千 m³（民間林 46 年生以上、2008 年時）で全国 5 位でトップレベルにある
 - ・越後杉ブランド材（新潟県が性能・品質を定めた材）を生産する認定工場が 95 社あり、供給体制が確立済み
 - ・「越後の匠の家」は、越後杉ブランド材を活用し環境に寄与する長期優良住宅とする
- 越後の匠の技を活用
 - ・新潟県内には長年住み続けられている優れた民家が多数存在し、匠の技が継承されている
 - ・「越後の匠の家」は、匠の技を活用し、伝統的工法も取り入れた長期優良住宅とする
- 気候風土に適した長期優良住宅「越後の匠の家」
 - ・新潟県内の 7 集落と 14 民家の調査を行い、気候風土の特徴と建築的工夫・知恵を多数発見した（平成 21 年度地域木造住宅活性化推進事業）
 - ・「越後の匠の家」は、民家調査からわかった気候風土の特徴や建築的工夫・知恵を活用した長期優良住宅とする
- 施工者・設計者・木材生産者ネットワークの活用
 - ・施工者・設計者・木材生産者ネットワークを活用し、造り手の「顔の見える」長期優良住宅とする



豊富な資源の杉人工林



認証シール貼の越後杉ブランド材



匠の技を活用



気候風土に適した住まい

■提案内容

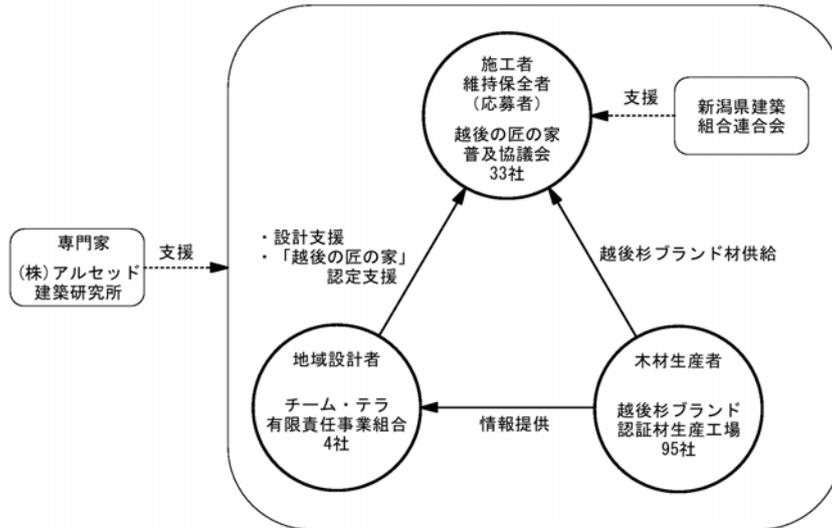
1. 民家調査に基づく越後の民家の建築的工夫・知恵を取り入れた住まいづくり
 - 新潟県内の 7 集落と 14 民家の調査を実施（平成 21 年度地域木造住宅市場活性化推進事業）
 - 民家調査からわかった建築的工夫・知恵を「越後の匠の家」の家づくりに活用（下記はその例）

			
押縁下見板張り塗壁の外壁は、部分補修が容易で気候風土に合う	土縁（雁木）は、夏の日射遮蔽、雪囲い等、多用途に使える半屋外空間	真壁で架構が現しの屋内は、経年変化が目視可能で、メンテが容易	吹抜の高窓で、通風と採光

2. 品質・性能が明らかな「越後杉ブランド材」等の地域産材を活用した住まいづくり
 - 越後杉ブランド材（製材品・合板）の使用
 - ・製材品：延べ床面積 1m² 当り 0.11m³/使用 ・合板：全て越後杉合板を使用
 - 越後杉ブランド材の活用方法
 - ・真壁構造の主要居室 ・長尺材を使用し構造躯体の耐久性を向上
 - その他、地場産材の安田瓦・越後和紙等の使用

3. 施工者・設計者・木材生産者のネットワークによる住まいづくり・維持保全体制

- 木材生産→設計→施工→維持保全まで、顔の見える「越後の匠の家」の住まいづくり



4. 施工者・設計者ワークショップにより作成した「越後の匠の家住まいづくり手引書」

- 「越後の匠の家 住まいづくり手引書」を活用し、高品質で優れたデザインの「越後の匠の家」を実現

「越後の匠の家」住まいづくりのための8つのコンセプト

1 地球資源の循環型社会を目指した住まい	5 越後の匠の技を活かし、素材を大切にしたい住まい
2 越後の気候風土（風・光・雪）に配慮した住まい	6 シンプルで美しい架構を持つ住まい
3 越後らしいまち並みと落ち着きのある外観に配慮した住まい	7 永く住み続けることのできる住まい
4 家族のふれあいを育み、近所づきあいを大切にしたい住まい	8 建設コストに配慮した住まい

「越後の匠の家 住まいづくり手引書」の40ルール（抜粋）

● 近所付き合いに活用できる雁木や通り土間を設けましょう	● 茶の間は日当たりの良い南側にしましょう
● 降雪時に活用できる半屋外の空間を確保しましょう	● 茶の間は吹抜や高窓などにより採光の工夫をしましょう
● 降雪量の多い地域では雪囲いの工夫をしましょう	● 家族の気配がお互いに感じられる間取りにしましょう
	● 屋内は真壁とし、内装材は自然素材を基本としましょう

5. 自立循環型住宅ガイドラインに基づいた環境配慮型の住まいづくり

- 「自然エネルギー活用要素技術」・「建物外皮の熱遮断要素技術」・「省エネルギー設備要素技術」を活用

■提案者からのコメント

長期優良住宅先導事業提案の採択は越後の匠の家普及協議会にとってたいへん重要な意味を持っている。昨年の民家調査にはじまり、施工者・設計者の協働ワークショップによる8つのコンセプト、40のルールからなる「越後の匠の家住まいづくり手引書」の作成、4つの住まいのプロトタイプ作成、そして今年度の越後の匠の家認定基準の整備、標準仕様書、標準詳細図の作成など、これまで協議会で議論し、手を動かして作って来た様々なアイデアが現実の住まいとなるからである。南北300kmにわたる新潟県に「越後の匠の家」が普及するためには、上越、中越、下越の各地域にそのモデルハウスが存在することが有効と考えられ、今回の「越後の匠の家 長期優良住宅先導モデル」はその役割も担うことになる。私たち越後の匠の家普及協議会はこの長期優良住宅先導事業を通じて、「越後の匠の家」の更なる普及に務めるものである。